

---

# 体温

さすらいのかえる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

体温

### 【コード】

N9238B

### 【作者名】

さすらいのかえる

### 【あらすじ】

素直になれない女の子の話。寒い日にデートの待ち合わせをしていて・・・

(前書き)

物語中に視点変換が二度あります。

「おそい！」

ほんとに私が待ち合わせの時間に早く来すぎただけだった。彼は時間通りに着いたのに・・・

「ごめんね」

彼はそう言うと自分のコートを脱いで私に着せる。ふわりと温かくなった。

私が寒そうにしてるのに気付いたのだろうか？

「おまえ薄着し過ぎだから」

「待たせるのが悪い」

私の口から出たのは、そんな言葉だった。ほんとに寒かったのだからしょうがない。

彼は苦笑しながら私の手を取り歩き出そうとした。手を握った時に気付く、私の手より彼の手の方が冷たかった。

「ん？」

私が歩き出さないのが疑問らしい。

「どうかした？」

「なんでもない」

私は彼になんって言ったらいんだろっか？

彼の手を見つめながら歩いた。

ヤバい遅刻だ！

本当なら約束の時間に間に合うのだけど、俺は彼女がいつも約束の時間より早く来ていることを知っていた。

そして、今日の待ち合わせ場所が外だ。

彼女は、厚着するのが嫌いらしく、いつも薄着だし、最近は寒くなっている。非常にまずい。

俺はコートだけ掴んで外に飛び出した。

「おそい！」

うわ！ 怒ってるよ。予想通り彼女は寒そうに待っていた。

「ごめんね」

寒そうにしてるの見てられないので、俺は自分のコートを彼女に着せた。

コート脱いだらメチャ寒いんですけど、こんな状態で待たせてたのか？

「おまえ薄着し過ぎだから」

「待たせたるのが悪い」

口ではそう言ってるけど・・・なんだかな。俺は彼女の手を取り歩き出そうとした。彼女の手が冷たい。

うーん、まずどこか店に入って暖まろう。

「ん？」

彼女は、なぜか歩き出さないうで繋いだ手を見ている。

「どうかした？」

「なんでもない」

そう言うと彼女が歩き出す。なんなんだ？ まあいいか。

俺の手を見つめながら何か考えている彼女が、どうしようもなく愛おしかった。

はあ〜どうしたらいいだろうか・・・

私は彼の手を見ながら歩いていた。

何となく視線を感じて、顔をあげると彼と目が合った。

い、今、言おう。

「あ、ありがとう」

「ん？」

「コートを掴んで私が言う。」

「これ」

彼が微笑んで言った。

「あーうん。どういたしまして」

いつの間にか冷たかった手が温かくなっていた。

おわり。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9238b/>

---

体温

2010年12月2日09時19分発行